


グループホーム アート園

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		事業所独自に「地域の人々との交流を深め地域に開かれたアート園になる様努めていきます」と理念を掲げている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念に基づいたケアが出来るように毎朝の申し送りで唱和し、実践に向けて日々一人ひとりの楽しみや、やりたい事を出来る限り実現出来るよう取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		フロアーや玄関に掲示し、面会時や家族会等で説明したり家族便りにて活動内容の報告をしています。また地域の方には毎月の老人会のサロンに参加した際に、運営推進会議に参加して頂いている民生員の方と意見交換を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		散歩や買い物に出かけた時に近所の方から声を掛けて頂いたり、地域の清掃活動や毎月の老人会のサロンに参加させて頂いている。また老人会のサロンに参加されてある地域の方々に施設の見学をして頂く機会を設けている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		利用者の方々がレクやサークル活動で作成した作品を近くの郵便局に展示してもらっている。地域の行事(保育園のバザー、公園清掃、敬老会、老人会サロン)に参加させて頂いている。また公民館で開催されたAED講習会に出席したり、地域の方との親睦会に参加して交流に努めている。その他中学生の体験学習の受け入れも行っている。

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等に暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会の清掃活動に参加している。また運営推進会議を通して地域の方々に介護相談に乗ることを伝えておりホームの見学の際は、グループホームの紹介や利用者の日頃の生活を見て頂いたり説明会を開いて質疑応答して取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価委員を各フロアより選出し前回の評価の改善点については他職員の意見を参考に話し合っている。決まった事は改善計画書を作成して全職員に回覧を呼びかけると共にミーティングにて報告し送りノートに記載して周知できるようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で園の運営、入居状況、活動内容、外部評価の結果と取り組み内容を報告している。自治会、警察、地域の方、家族を招いて離園行為を例にあげ離園防止、離園時対応マニュアルの報告を行い、アドバイスを頂き新しいマニュアルの作成の参考にさせて頂いた。また警察の方の協力を得て災害時防災マップの作成を行った。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	判断に迷う際には市の担当の方に電話やFAX、メールにて相談する事があるが行き来することはない。		定期的に行き来する機会を持ち情報交換を行いサービスの向上に役立てていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	教育委員会を設けており定期的に権利擁護や成年後見人制度について勉強会を開き理解を深めている。資料も各フロアにファイルして職員が閲覧できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会にて勉強会を開き、虐待が起こらない様に努めている。その際アンケートを取り意識調査を行ったり、具体的に例をあげ虐待とはどういうものか全職員に周知出来るようにして防止に努めている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には利用者や家族の不安や疑問点を伺い事業所のケアに対する考え方や取り組み、対応可能な範囲について十分に説明し重度化や看取りについての要望を伺っている。また入居前には見学を勧め納得された上で契約して頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個別に利用者と話せる機会を持ったり、様子から不安や不満がないか察知し職員間で話合っている。また施設長が週1回位に利用者の意見を聞くようにしており、地域の民生員の方にも苦情係りをお願いしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に園便りを発行し健康状態や日常の様子を写真を添えて知らせ、遠方や疎遠の家族には面会に来て頂けるようお願いしている。また変化が生じた時は状況により電話にて報告し相談している。その他、金銭管理等については明細書を送付し確認印を頂いている。また職員の異動については園便りにて報告し、エレベーター内にも掲示して知らせている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には家族の方より意見や要望を伺ったり意見箱の設置をしている。また園に家族との窓口になる委員会があり苦情等に対処している。運営推進のメンバーである民生員の方に意見が言えるよう窓口になって頂いている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に施設長を交えて各ユニットの代表者が参加してのミーティングを開催したり全体会議で意見交換や提案を出せる機会がある。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化や要望に対応できる様な勤務体制を職員同士で話し合い調整に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係が保てるよう異動は極力行わないように配慮している。異動の場合は利用者のダメージを防ぐよう事前に異動先のユニットに行き自己紹介を行ったり細かい部分まで申し送りをしている。</p>		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また採用後も外部研修や内部勉強会を通して能力を発揮できるように配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>外部の研修に参加し、園内の勉強会で取り上げて全職員が利用者に対する人権を尊重できる様働きかけている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>福岡市の事業者協議会に参加しており、研修会に参加後勉強会にて報告し職員への周知を図っている。また園内の教育委員会が定期的に内部研修を行っている。実践者研修の参加資料は職員がいつでも閲覧し参考に出来るようファイルしている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡市の事業者協議会の研修に参加し他の事業所の職員と情報や意見の交換を行いサービスの向上に役立てている。</p>		<p>定期的に事業所間の訪問を行ったり意見交換できる機会を持てるように近隣の事業所間にて名簿作りを開始した段階にある</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>気分転換できるよう休憩室の利用をしている。また職員間でも親睦会やミーティングを行いストレスを軽減している。個人的な悩みに対しては施設長が個別に面談を行うようにしている。</p>		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長は定期的に各ユニットに訪れ職員と会話したり業務体制を把握するよう努めている。また全職員が認知症実践研修等に順次参加できるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に施設長が自宅や病院等に伺い話を聞くようにしている。また面談にて生活状況を把握するよう努め本人の持っている不安や求めている事を具体的に聞く機会を持つようにし、信頼関係を築くようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に施設長が自宅や病院に伺った際や電話にて家族の不安や悩みをよく聴き、事業所としてはどのように対応できるのか施設長と職員間で話しあっている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い状況等を確認し必要としている支援を見極めサービスの提供や相談に乗るようしており、リハビリ通院や訪問歯科の利用可能な事を伝え他機関へのサービス利用に努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学して頂いた時にお茶を出したり、フロアで他の利用者の方と会話して頂き、園の雰囲気に馴染めるようしており食事等も勧めている。		一回の見学だけではなく何度も遊びに来て頂きここに体操やレク等に参加して頂き徐々に馴染めるように取り組みたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや不安、喜び等を知る事に努め、食事の準備や掃除、レクリエーション等、利用者と職員が共に楽しんだり励まし合ったりして共感する事により、より良い関係作りができるように努めている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開催したり毎回行事への参加の呼び掛けを行い、本人、家族、職員と一緒に楽しんでいる。面会時では情報の交換を行い、本人の不安や不満で職員が解決できない所は家族に相談し協力を頂き支えて行く関係を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や園便りにて本人の日頃の状況を報告している。また外出や外泊等で家族と一緒に過ごして頂く時間を勧めたり、行事等に参加してもらいより良い関係が築いて行けるよう支援している。正月には年賀状を出して頂いたり、面会が少ない方には利用者の方より家族の方へ電話を掛けて頂きお話しする機会を持って頂いている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が集まれる催しにお連れし交流が持てるように支援している。また昔からの知人や友人の方に来て頂いたり、家族と一緒に馴染みの場所に行けるように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	週に2回程、全利用者が集まり体操や歌を楽しんだり、気の合う人同士で過ごせる場面作りをする等、利用者同志の関係がうまく行くように職員が間に入り支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の病院受診時に以前入居してあった方や入院中の方のお見舞いに訪れるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用し一人ひとりの思いや生活歴の把握に努め、利用者の日々の行動や表情から汲み取るように努めている。困難な場合は家族から情報を頂き入居前の趣味や生活習慣が継続できる様支援している。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設長が事前に何度か訪問し本人や家族から入居前の暮らしぶりを伺ったり、入居後も本人や家族から話を伺いセンター方式に記入する事で、より本人の生活習慣を理解する様に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、一日の生活パターンと心身の状態の変動を記録したり様子を観察する事で、出来る事や分かる力を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の希望を聴き反映できるよう職員全員でアセスメントやカンファレンスを行うようにしている。また判断力がしっかりされている方にはカンファレンスに参加して頂き自分の思いを話して頂いている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスは3ヶ月に1回行うようにしており、ケアプラン作成後は毎月評価すると共に状態の変化に対してはプランの立て直しを行うようにしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を記入する際は利用者の状態の変化やその時の様子や介護計画の実践を記入するようにして情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じてリハビリ受診や他医療機関への受診の希望に応じている。また買い物や理美容室の利用等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように支援している。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生員や自治会の方々と意見交換しながら老人会サロンの参加を促したり、消防関係者を呼んで避難訓練を行ったり、警察の方の指導を得てセーフティネットワーク作り等に協力していただいている。近くの郵便局に利用者の作品の展示をお願いしたり、書道展の出品をしたり、ボランティアの陶芸教室を招いたりしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じ訪問理容サービスの利用をしてもらっている。また送迎付きのリハビリ、紙オムツの給付等を利用している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加頂き助言や意見を頂いている。不参加の時は開催月の議事録を提出している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医からの情報交換や連絡が取れるようにして安心して頂ける様に支援している。また緊急時には提携している総合病院を紹介して頂ける体制がある。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近くに専門医があり、診断情報や治療方針等、認知症についての指示や助言をもらっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また家族や入院先のスタッフの方とも情報交換しながら回復状況を伺い把握し、速やかな退院支援に結び付けている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の面接時に本人や家族に終末期に対する考え方を伺っている。終末期を迎えられた際には事業所の対応方針について本人や家族の意向を確認しながら、かかりつけ医とも相談して職員間で話し合い対応方針の共有を図っている</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の気持ちを大切に家族と話し合い利用者が安心して頂けるよう取り組んでいる。急変した場合は医療機関と連携を取りながら対応できるようにしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまでの生活環境や支援の内容、個人情報を提供し、きめこまかい連携を心掛けている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録や個人情報は利用者や家族の目につかないようにして申し送りも別室で行うようにしている。また勉強会で虐待や言葉使い等を取り上げ、声掛けや介護する時も利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を常に意識している。</p>		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で入居者の希望や好みを理解し、ティタイムに何を飲みたいか等小さな事でも本人が意志決定できるよう声掛けをしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間の制限は設けてなく、その時その時にお知らせするが、一人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら散歩や買い物、起床や就床時間等本人の気持ちを尊重した生活を支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の個性を大切に衣服は本人の好みで選択して頂き、不十分な所はさりげなく直している。理美容は基本的に訪問理容を利用しているが、希望がある場合対応できるようにしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣のスーパーで買い物するようにしている。メニューは利用者の好みを取り入れたり、時には外食や出前を取ったりして食事が楽しめるよう支援している。また利用者と職員は同じ物を一緒に食べ、準備や片付けも利用者の能力に合わせて一緒にしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒や喫煙をされる方は現在いないが、1日3回のティタイムで事前に準備できる物をお伝えし、本人に選んで頂き好みのお菓子や飲み物を楽しめるよう支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ案内板の設置や排泄表を活用して排泄パターンを把握し声掛けや誘導をするようにしている。失敗した場合もさりげなくプライドを傷つけないよう対応している。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決めているが希望がある時は対応できるようにしている。体調に無理が無い範囲で湯温も好みに合わせゆっくり入浴できるよう、利用者同士や職員と会話したり、歌を唄ったりして楽しめるようにしている。		毎日時間を選ばず本人の希望に応じて入って頂く様にする。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。起床時間や就床時間は決めず個人の習慣を尊重し、一人ひとりの体調や希望を考慮して、ゆっくり休息ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の能力に合わせて花の水やりや洗濯物干し、掃除等をして頂いている。また陶芸教室の参加やカラオケ等気晴らしや楽しみ事の支援を行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じ、一緒に買い物に行けるようにしている。その時、手元に小額のお金を持って頂き本人が支払いできるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に配慮し希望者や声掛けにて散歩などしている。また歩行困難な方も車椅子にて出かけられるように支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事にて花見に出かけたり、ユニットごとに利用者の希望で外出し、外食の機会を設け支援している。また家族の協力を得て外出する機会を持って頂いている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて年賀状を出したり、家族や知人に電話できるように支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の方が時間帯を気にされず気軽に訪れられるよう面会の時間制限は決めておらず、お茶等を提供し、居室やフロアでくつろいで頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修に参加しており日々のケアの中でも言葉や声掛け等で本人の行動を制限しない様意識している。また園でも定期的に勉強会や資料にて職員の認識を高めていくように努めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけず日中は手動にしており、利用者が外出しそうになったら止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。また近隣には迷子になられた時に連絡して頂けるように案内を掲示している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者と同じ空間にて記録などを行いながら常に所在の確認を行うようにしている。夜間は時間ごとに巡回等で利用者の様子を確認しながら事故がないように努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除く事は無く利用者の必要に応じて使用できるように対応している。また夜間は包丁やハサミ等は目に付かない場所に保管するようにしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から危険を予測し未然に防ぐ工夫に取り組んでいる。またヒヤリハットや事故報告書を作成し、各ユニットで回覧し再発防止に取り組んでいる。教育委員会にて勉強会を開催したり、危険マップ、防災マップの作成や警察の協力を得てのセーフティネットワーク作りをして対応できるようにしている。		災害時に使用する個人の病歴等を記載した身分証明書を作っている段階です。

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	外部研修に参加したり園内の勉強会で年に一度テーマとして取り上げ職員が学ぶ機会を持つ様にしている。また消防訓練の中で救命救急士の指導のもとAEDを使用した心肺蘇生を習い全職員が対応できるようにしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マップと避難経路の確認を警察の方より意見を頂き協力を得て作成している。また民生員の方を通じて災害時は地域の方の協力を得られる様をお願いしている。避難訓練については消防関係者の方に協力して頂き利用者参加のもと夜間を想定して職員と避難訓練を行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居前の面談の時に過度に抑圧すると本人がストレスを感じられるので自由に生活して頂く事を心掛けており、その際転倒が起こりうる事を説明し理解して頂いている。また利用者に関わり得るリスクについても職員間で話し合っており把握するようにし、予防策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色や様子に注意し変化や異常がある場合は速やかにバイタルチェックを行い主治医に連絡し指示を仰ぐようにしている。その際受診結果を家族に報告すると共に他職員にも申し送りしてその時の状況や情報を共有するようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容、目的、用法、副作用を把握できるように勉強会を開催したり、処方箋を個人別に整理し内容を確認できるようにしている。また受診の際は受診ノートに症状や処方内容、理由など記入し確認できるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜中心の食事に心掛け、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、体操や腹部マッサージ、散歩で身体を動かす自然排便できるように取り組んでいる。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて見守りや介助を行っており、毎日義歯の洗浄消毒を行うようにしている。また外部研修に参加し勉強会にて伝達、講習を行い口腔ケアの重要性を認識する様にしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録し、健康状態やバランスを確認するようにしている。また嚥下機能が低下している方にはきざみ食やトロミを付けて提供したり、朝のラジオ体操のプログラムにてパタラカ等の発声や嚥下体操を行うようにしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の勉強会を開催したり、マニュアルを作成し予防対策に努めている。定期的に入居者、職員はインフルエンザ等の予防接種を受けるようにしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎晩漂白し清潔を心掛けている。冷蔵庫も点検や掃除を行い新鮮な食材を使用するよにしている。まな板は肉、魚、野菜と使い分けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に手作りの案内板やベンチを設置し、建物周辺にはプランターに利用者と一緒に季節の花を植えたりして、近所の方が立ち寄りやすいように工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに掲示物や草花を飾ったり、各居室には暖簾を掛けてあり、トイレやお風呂など解りやすく表示している。共用の空間は少し狭いが自由に過ごしていただくよう工夫している。また玄関に利用者と職員の共同で作成した作品を展示している。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファとテレビがあり、利用者が楽しく語らったり、新聞を読まれたりして過ごされてある。また一人になりたい時は居室で過ごされ仲が良い方が訪室されたりもしている。		共用空間の中にも独りで過ごせる居場所作りを行う。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れたタンスや鏡台を置いたり、仏壇を置かれてある方もいらっしゃる。家族が書かれた絵や写真等を飾ったりして居心地良く過ごせるように工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋とフロアーに温度計があり、一人ひとりに合わせて冷暖房の調整をこまめに行っている。掃除以外にも常に換気を行ったりしてなるべく外気温と変わらないように工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下に手すりを設置し、バリアフリーになっている。また利用者の状態に合わせて、出来るだけ廊下には物を置かないようにして、家具を固定したり車椅子を使用したりして安全で自立した生活が出来るように工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレまでの矢印案内と絵による案内で解り易いようにしている。またフロアーに大きな文字のカレンダーを掛けたり、居室の入り口には好みの暖簾を掛けて混乱しないように工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチがあり、利用者の方が外気浴をしたり花壇に水やりをしている。またベランダの花にも利用者の方が役割を持ってお世話をされている。		

グループホーム アート園

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム アート園

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

馴染みの職員、馴染みの利用者さん同志の中で、今まで親しんで来た生活様式を大切に、出来る事、出来るかもしれない事に目を向け、能力に合った役割を持つ事で、その人らしく生き生きと生活して頂ける様に取り組んでいます。また地域との交流を大切に、地域の方々と事業所がお互いに支え合い、気軽な付き合いが出来る様に、地域の行事や清掃活動に参加したり、事業所の見学会を開催したりして、利用者が地域の中で安心して暮らせる様に取り組んでいます。